伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

横浜市立大学
医学部看護学科・医学研究科看護学専攻
研究シーズ集

横浜市立大学医学部看護学科・医学研究科看護学専攻では、保有する知的資源を活用し、地域の保健医療福祉の発展に貢献するため、教員が取り組んでいる研究テーマや研究成果を紹介します。
「看護の知」を共有・活用・創造し、研究の発展のためにご活用いただけますと幸いです。

目 次

看護生命科学 …… 1
基礎看護学 …… 2
実践看護科学 …… 5
成人看護学 …… 8
国際担当 …… 12
先端成人看護学 …… 13
小児看護学 …… 15
母性看護学 …… 18
老年看護学 …… 23
精神看護学 …… 25
地域看護学 …… 30

2026 年 9月更新

● 研究テーマ:

皮膚、薬、痛みに関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

看護生命科学領域/クリティカルケア・周麻酔期看護学分野

教授 赤瀬智子、准教授 福田真佑、助教 堀江良子、助教 木田真胤、助教 前澤美佳

● キーワード:
皮膚、漢方、ケアデバイス、痛み、疼痛、麻酔、周麻酔期看護師、
クリティカルケア、救命救急、集中治療、トランスレーショナルリサーチ、
臨床看護学、看護理工学、副作用ケア、血管外漏出、皮膚障害、医薬品情報学、有害事象自発報告データベース

● 研究室HP:
https://www.ycu-biologicalscience-perianesthesianursing.com/

● 貢献できるSDGs: 3.すべての人に健康と福祉を

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

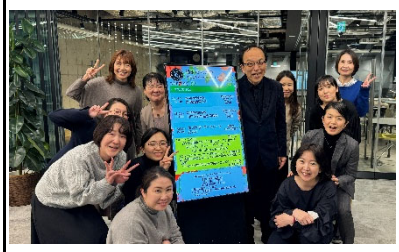
● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
・皮膚内水分・油分の全身マップによる病態・重症度別皮膚バリア機能評価の確立
・CIPNのメカニズムに直接アプローチできるCIPN発症予防ケアの確立
・自己申告できない患者の疼痛に伴う情動の可視化モデルの構築
・肥満の皮膚バリア機能低下に対するオメガ3系脂肪酸を用いたケア方法の確立
・集中治療後の慢性疼痛への患者が行う対処戦略の特徴と対処過程における支援の可視化
・電子診療録データと機械学習を融合した血管外漏出予測モデルの開発と検証

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
・生理学的指標 (血流測定、皮膚機能測定、組織標本作製、細胞培養、Realtime RT-PCR等)の評価ができます。
・細胞・組織・動物を用いた評価やケア用品の効果検証ができます。
・皮膚機能測定を通して、人々の健康の維持・向上(ヘルスウェルビーイング)を目指した活動を行っています。
・基礎研究を通して、看護を根本まで追究し、本質的で質の高いケアを創る看護師の育成に取り組んでいます。

● 研究テーマ:

看護の魅力発信とキャリアデザインの支援



● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

学部:基礎看護学
大学院:基礎看護学/看護プロフェッショナル教育学/看護ケアシステム開発学

佐藤政枝（教授）、飯島由理子（助教）

● キーワード: 看護の魅力発信、プロフェッショナル教育、専門職のキャリア形成

● 情報:
大学HP: https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/dn/kisokango.html
研究室HP: https://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/

● 貢献できるSDGs:
③保健、④教育、⑧成長・雇用、⑨イノベーション、⑩不平等、⑪都市、⑯平和、⑰実施手段

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（ご相談いただければ検討いたします）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談いただければ検討いたします）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

私たちには、小学生を対象とした子どもアドベンチャーカレッジ（横浜市主催）や、中高生対象のオープンクラス（YCUエクステンション講座）など、YCU看護学科独自の看護の魅力の発信や、看護学の学びの体験に関する多くの活動実績があります。看護職に対しては、プロフェッショナリズムを共有するワークショップや、インストラクショナルデザインを活用した教育設計の研修（YCUエクステンション講座）などを定期開催しています。また、これらの活動の多くには、本学の学部生や大学院生が協同してくれています。

これまでの活動を通してわかってきたことは、看護のプロフェッショナルとしてのアイデンティティやキャリアの形成には、職業に就く前からのお一人おひとりの経験が基盤となっていることです。さらに、学校や組織を越えた越境学習の場（実践共同体）が、重要な役割を持つ可能性がみえてきました。これらをもとに、教員と大学院生、学部生が一緒に研究を進めています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
・看護の魅力を発信するイベントの企画や教材づくりなど協同させていただきます
・小学生から高校生まで、未来の看護系人材を目指す若者たちに向けたキャリア発達やキャリア形成のサポートが可能です
・看護職として現在働いていらっしゃる方々や看護職をお休み中の方々のキャリア形成の支援を協同させていただきます
・看護職や看護系教員の教育力の向上をサポートする研修の企画（実施・評価を含む）なども得意分野としています
・横浜市や金沢区などの地方自治体や県内の医療機関との連携の実績があります

● 研究テーマ:

患者中心のケア（PCC）と共有意思決定（SDM）を具現化するケアプログラムの開発と効果検証

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

佐藤政枝（教授）

学部：基礎看護学
大学院：基礎看護学/看護プロフェッショナル教育学/看護ケアシステム開発学

● キーワード:
共有意思決定（SDM）、患者中心のケア（PCC）、患者教育、アプリ開発、遠隔看護

● 情報： researchmap： https://researchmap.jp/read0138186
研究室HP： https://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/
連絡先： m_satoh@yokohama-cu.ac.jp

● 貢献できるSDGs: ③保健、④教育、⑧成長・雇用、⑨イノベーション、⑩不平等、⑪都市、⑯平和、⑰実施手段

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
■その他（ご相談いただければ検討いたします）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談いただければ検討いたします）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

私たちの健康や病気に関わる意思決定では、自分にとって重要な情報にアクセスでき、また、専門家から有益な助言を得られることがとても大切になります。患者教育においてもSDMが当たり前に実践されるケアシステムの確立に向けて、看護ならびに多職種連携チームで研究を進めています。そして、この研究の中心には常に患者さんが存在しています。

現在の主要なテーマは以下の3点です。

1. 急性期病院における転倒・転落予防
 ① リスク要因と予測モデルの評価，② 患者参加型予防プログラムの開発・評価
2. 人工股関節全置換術後のQOL
 ① 動作分析による評価，② 環境調整の提案
3. 遠隔看護システムによる多職種連携チームケア
 ① 入院前アセスメントとケア，② 入院中の継続ケア，③ 退院後の評価と継続ケア

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・転倒・転落予防については、病院以外の施設や地域における取り組みにも参画させていただくことが可能です
・人工関節手術を受けられる方のセルフケアのためのアプリの開発・評価などの共同研究についても大歓迎です
・看護のGood practiceを支える教材づくりなど積極的に協同させていただきます
・立位姿勢や動作の安定性を評価する指標やツールの開発・評価にも関心をもっています
・他大学や医療機関（附属2病院や専門病院）との共同研究の実績が多数あります

● 研究テーマ:

状況認識モデルを用いた看護技術学習に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

飯島由理子　医学部看護学科基礎看護学領域　助教

● キーワード: 状況認識モデル　看護技術教育　インストラクショナルデザイン 段取り

● 情報:
researchmap:　https://researchmap.jp/yuriijima?lang=japanese
研究室HP:　https://plaza.umin.ac.jp/~msatoh-ken/index.html

● 貢献できるSDGs:

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
看護学生が、看護職のように考え、創意工夫を加えながら看護技術を実施できるようになるために、状況認識モデルを用いた看護技術学習プログラムの開発に取り組んでいます。インストラクショナルデザインも活用しながら、効果的・効率的・魅力的な看護技術学習になることを目指しています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
看護大学生を対象とした看護技術学習プログラムの開発に取り組んでいます。将来的には、学生だけでなく看護職の現任教育にも活用可能なプログラムを目指しています。

● 研究テーマ:

1.看護人材が「楽しく」「伸びやかに」「自分らしく」キャリアを展開するための要因探究と環境づくり

2.地域住民との協働連携による「地域の健康」づくり

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

佐藤 みほ・実践看護科学領域・教授

● キーワード:看護人材、キャリア形成、キャリア発達、就業継続、支援、地域住民、共助、地域の健康、ウェルビーイング

● 情報:
https://researchmap.jp/mihosth
http://competencyns.wordpress.com

● 貢献できるSDGs: 3, 4, 5, 8, 9, 10, 16, 17

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

【研究テーマ1について】
質的・量的研究を通して、看護人材が誇りと自信をもって、専門性を発揮させながら自分らしく仕事に従事することを後押しする、職場環境や私生活の環境を醸成する重要性を再確認してきました。
看護人材が伸びやかに成長し続けながら、満足度や充実度高く自身のキャリアを展開していくために必要な要因を多角的な視点から明らかにし、支援的環境の構築、支援策の策定につなげられるよう、社会学や組織心理学の枠組みを援用して、看護職や看護教員を対象とした研究を行っています。

【研究テーマ2について】
横浜市金沢区の一つの地区を中心に、地域住民主体の健康づくり活動を地域のケアプラザと協働で進めています。住民や街全体のウェルビーイングを高めることを目指し、共助型の活動となるよう支援しつつ、運動教室や健康づくり講座、認知症のセルフチェックツールの提供等を行っています。
過去には東京都内で共助型介護予防教室の運営と評価研究に携わった経験もあり、QOLや精神健康度の向上、地域の人と人とのつながり、住民の主体性の向上といった一定の成果が得られました。

【研究テーマ3について】
疾風怒濤の時期ともいわれる思春期時期を生きる子どもを対象とした研究に細く長く携わっています。3年間に亘る縦断研究では、思春期の子どものストレス対処力の形成には家庭・学校・地域社会環境が相乗的に影響することを明らかにしました。
また、幼少期の家庭での習慣形成や家族関係がその後の心身の健康やストレス対処力にも関わることを明らかにしました。
現在は若者を対象としたウェルビーイング向上のための大型研究に携わっており、仮想空間上の不登校児支援や若者の心の状態の変動に影響する要因の探索を中心に研究を進めています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

【研究テーマ1について】
・看護職の方々のキャリア展開を支援するための講座や研修会の企画や運営にご協力いたします。
・看護職の就業継続支援の対策づくりにご協力いたします。
・看護職の方々の働き方やキャリアに関する調査研究にご協力いたします。

【研究テーマ2について】
・地域住民主体の健康づくり活動、ウェルビーイングやQOL、幸福度を高めるための活動にご協力いたします。
・地域住民を対象とした健康づくり教室や研修会、プログラムの企画、運営にご協力いたします。

【研究テーマ3について】
・思春期の子どもたちのウェルビーイングを高めることを目指した活動にご協力いたします。
・思春期の子どもの健全な成長発達を支援する様々な活動にご協力いたします。
・思春期の子どもを対象とした調査研究にご協力いたします。

● 研究テーマ:

・看護職が働く職場の職場風土などに関する研究
・看護職員間でのハラスメントや職場いじめにおける周囲の人たち（傍観者）に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

吉見 早紀子・実践看護科学領域・助教

● キーワード: 看護師、職場環境、就業継続、職場いじめ、ハラスメント、傍観者行動

● 情報:https://researchmap.jp/sakikoy researchmap

● 貢献できるSDGs: 3,4,8,10

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: 看護師間の職場いじめは、ケアの質が低下し、患者の安全が脅かされることが明らかになっています。職場いじめは、当事者間での解決が難しく、放置するとますますエスカレートします。このため、周囲の人たち（傍観者）がどのような行動をとるかが、解決につながるとされています。傍観者が解決に向けて行動するための要因などを検討しています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・看護職の方々を対象に、職場におけるハラスメント等への理解を深め、周囲のスタッフが適切な関わりや支援について学ぶための講座・研修の企画・運営に協力いたします。
・看護職の方々の職場の職場風土などに関する調査研究にご協力いたします。

● 研究テーマ:

・若年女性における月経前症状（PMS）の実態解明と予防的セルフケア行動の確立
― 看護教育および実践への応用を目指して ―

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

禹 効定・実践看護科学領域・助教

● キーワード:月経前症状 若年女性 看護学生 セルフケア 予防行動 看護教育 女性の健康

● 情報：https://researchmap.jp/woohy

● 貢献できるSDGs:3,4,5,8,

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

本研究は、看護学生を対象とした研究を出発点としつつ、その成果を若年女性全体へと広げ、月経前症状に対する予防的セルフケアの確立に貢献することを目指しています。さらに、その知見を看護教育に還元することで、学生一人ひとりが自身の健康を主体的に管理できる力の育成にもつなげていきたいと考えています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

月経前症状の予防的セルフケア行動に関する知見や尺度開発の成果を活用し、健康教育プログラムの構築やセルフケア支援の推進にご協力いたします。

● 研究テーマ:

・看護理工学を基盤とした患者ケアの開発
・デバイスを用いた皮膚・排泄ケア技術の開発と評価

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

玉井奈緒（学部：成人看護学領域・教授）
（大学院：成人看護学分野/がん看護学分野/成人看護科学研究分野・教授）

Nao Tamai (Department of Adult/Cancer Nursing)

● キーワード:
看護理工学、創傷ケア、皮膚・排泄ケア、がん看護、超音波検査（エコー）
Nursing Science and Engineering, Skin, Wound, and Continence Care, Cancer Nursing, Ultrasonography

● 情報： researchmap: https://researchmap.jp/ntamai
研究室HP: https://ycu-seijinkango.jp/

● 貢献できるSDGs:③保健、④教育、⑨イノベーション、⑩不平等、⑬気候変動

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談ください）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
対象は、成人全般、特にがんの患者さんとの関わりが多いです。治療の副作用により生じた皮膚障害や創傷、排泄障害に焦点をあてて研究をおこなっています。また、車いすアスリートの褥瘡予防にも力を入れています。対象者のニーズを把握するとともに、起きている現象を理工学的な手法を用いて明らかにするとともに、対象者の皆様の症状緩和のために必要な看護ケア・技術の開発に取り組んでいます。
また、気候変動が健康に及ぼす影響についても関心をもっており、共同研究者とともに『プラネタリーヘルス』の課題にも取り組んでいます。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
誰もが快適な環境で我慢することがない療養生活を送れるよう、産学官連携で看護ケアのイノベーションを目指したいと思っております。
横浜市立大学は看護学科・医学科と附属2病院との連携も強く、最適な環境が整っています！
お気軽にご連絡ください。
Email: tamai.nao.tx@yokohama-cu.ac.jp

● 研究テーマ: 1. ケアの質の可視化を目指した反実仮想機械学習システムの開発、2. 超音波検査装置を用いたケア方法の開発評価 3. LLM, XRを用いた教育、業務支援方法の開発評価、4. ロボットによる生活支援方法の開発評価

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

高橋聡明、成人看護学、准教授

● キーワード:看護理工学、データサイエンス、機械学習、超音波検査、ロボティクスナーシング、

● 情報: https://researchmap.jp/some0104

● 貢献できるSDGs:3,4,9

● 連携可能な対象: ✓・ 企業 ✓ 行政 ✓ 教育機関 ✓ 医療機関 ✓ 患者・家族・市民

☐その他（ ）

● 連携可能な内容: ✓ 研究ニーズの検討・聞き取り ✓ 共同研究（計画・予算獲得・実施）

✓ 研究結果の共有（研修・講座） ✓ 研究成果の活用（社会実装）

☐その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: データサイエンス、電子カルテ(EHR)などの業務記録に基づいたリスク分析を行なっています。機械学習モデルの開発やケア介入の効果量の推定を行います。他には末梢静脈カテーテルや排尿排便を支援する超音波検査の臨床実装、クロスリアリティ(AR,VR)を活用した教育効果の測定、コミュニケーションロボットなどによる高齢者支援を行なっています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:医療資源サプライと使用実績に関連する分析を行いますので、関連するデータ等の分析について共同可能です。また末梢静脈カテーテルや固定フィルムの適正利用や超音波検査(エコー)によるケアの質向上も行なってきました。看護師が使用する医療材料に関連する研究課題であれば協働可能です。

● 研究テーマ:
・ICTを活用したHIV感染者におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する研究
・脂質異常症のHIV感染者に対するスマートフォンアプリを用いた生活習慣改善プログラムの効果検証

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

青盛真紀（学部：成人看護学領域・講師）
（大学院：成人看護学分野・講師）

● キーワード:感染看護、感染管理、HIV、性感染症、生活習慣病、教育

● 情報:
researchmap：https://researchmap.jp/7000019225
研究室HPリンク：https://ycu-seijinkango.jp/

● 貢献できるSDGs：③全ての人に健康と福祉を、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑩人や国の不平等をなくそう

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
私が取り組んでいる研究は、HIV感染者に特化したACPに向けた支援モデルの構築と、スマートフォンアプリを活用した生活習慣改善プログラムの効果を検証するものです。従来のACPが家族の関与を前提とするのに対し、本研究ではICT技術を活用し、単身者やキーパーソン不在のHIV感染者にも適用可能な支援モデルを構築します。また、生活習慣改善に向けたアプリ介入では、デジタル技術と対面でのサポートを組み合わせたハイブリッド型の介入モデルを提案しています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
デジタルヘルス分野との連携：アプリ開発企業と協力し、医療・福祉とICTを融合した新たな健康管理モデルを提案。
公衆衛生・医療政策への応用：HIV感染者の高齢化に伴う医療課題に対し、自治体や保健所と連携した包括的な支援策の構築が可能。
国際的展開の可能性：日本独自のACP支援モデルを構築し、HIVケアの新たなスタンダードとして国際展開を視野に入れる。

● 研究テーマ:

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

春木 ひかる （成人看護学・助教）

● キーワード:がん看護学、がん薬物療法看護

● 情報：researchmap:https://researchmap.jp/hikaru_haruki
研究室HP: https://ycu-seijinkango.jp/

● 貢献できるSDGs:3, 4, 9

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
がん薬物療法を受けている患者と家族の支援、特に化学療法誘発性末梢神経障害患者に関するケアが研究テーマです。がん患者の治療と仕事・生活の両立について関心があります。がんという病気と折り合いをつけながら健やかに過ごすために必要な、症状マネジメント、セルフケア支援、生活調整に関する看護ケアの開発と評価を行っています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
がん薬物療法を受ける患者の症状評価や支持療法に関する研究を行っています。特に化学療法誘発性末梢神経障害（CIPN）について、サーモグラフィや皮膚生理学的指標を用いた客観的評価や早期予測に取り組んでいます。がん患者の症状評価、セルフケア支援、看護師が使用する評価機器やケアツールの開発・臨床評価に関連する研究課題であれば協働可能です。

● 研究テーマ:

ケニアにおけるスナノミ症治療薬の有効性・安全性評価に関する臨床研究
家禽飼育とスナノミ症発症リスクの関連性評価
国際看護教育に関するアジア4大学との共同研究
国際バカロレア（IB）修了者の大学適応・キャリア形成に関する研究
プラネタリーヘルス教育の実態評価と教育プログラム開発

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

鈴木佳奈、看護学科国際担当、助教

● キーワード:
ケニア保健医療（HIV/AIDS、スナノミ症、生理、衛生行動）、健康行動（検査行動、治療希求行動）、臨床試験、ワンヘルス、国際看護学、国際バカロレア、プラネタリーヘルス
Health and Medical Care in Kenya (HIV/AIDS and Tungiasis)、Health-seeking Behavior、Clinical Trial、One Health、Global/International Nursing、International Baccalaureate、Planetary Health

● 情報: https://researchmap.jp/424ksuzuki

● 貢献できるSDGs:①貧困、②栄養、③保健、④教育、⑤ジェンダー平等、⑥水・衛生、⑬気候変動

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: 感染症と教育を主な研究領域とし、社会実装を重視した研究を展開しています。感染症分野では、スナノミ症を対象に、低資源地域でも利用可能な治療法の開発・評価および持続可能な予防戦略の構築に取り組んでいます。教育分野では、フォトエリシテーションインタビューを用いた国際共同研究を強みとし、国際看護教育、国際バカロレア（IB）教育、プラネタリーヘルス教育に関する調査・教育プログラム開発を進めています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:ケニアには計7年滞在しておりました、内5年は現地のスタッフと共に研究を進めて参りました。保健省、地域保健局、大学や研究機関関係者まで多くの方と知り合うことができ、地域に根差した研究を進めやすくなっております。研究内容だけでなく、ケニアで研究を進めたいがどのようにスタートしていいか分からない、ケニアで研究パートナーを見つけたい等のご要望にもご助言・お答えできますのでお気軽にお問い合わせください。
Email: suzuki.kan.za@yokohama-cu.ac.jp

● 研究テーマ:

重症疾患患者への摂食嚥下障害看護ケア、移植・再生医療看護

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

千葉由美、先端成人看護学/機能再生看護学、教授

● キーワード:重症疾患、摂食嚥下障害、移植・再生医療、評価、看護実践

● 情報: https://researchmap.jp/read0075963/
https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/dn/gan/index.html

● 貢献できるSDGs:3, 16, 17

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

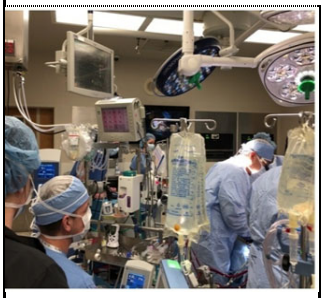
● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: 長年にわたり、摂食嚥下障害患者様に対する摂食嚥下の機能評価や看護ケア介入と効果、さらに地域の障がいや高齢者の方に対する機能維持・予防と効果といった広域にわたる研究を行っています。最近では、心不全や呼吸器疾患、長期挿管・抜管後の重症患者様の摂食嚥下障害、低栄養、身体的（骨格筋）脆弱化に関する研究をエコーやその他の医療機器デバイスを用いながら進めています。また、移植・再生医療看護を発展させるために国外ともに共同研究を開始しています。本領域では、診療看護師や専門看護師、特定行為看護師、認定看護師などの高度看護実践者、ならびに医師、他職種とのチーム医療促進をはかる実装研究を進めています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:様々な疾患や重症度に応じた摂食嚥下障害や移植・再生医療に関連する専門的技術、経験知もから、新たな研究や機器の開発に関する研究のアイディアをご提供できます。

● 研究テーマ:

重症心疾患患者への先進医療・高度看護実践に関する研究



● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

千葉由美、先端成人看護学・機能再生看護学、教授

● キーワード:重症疾患、高度実践、臓器移植、再生医療、看護

● 情報: https://researchmap.jp/read0075963/
https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/dn/gan/index.html

● 貢献できるSDGs:3, 16, 17

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: 米国での臨床場面や基礎研究の体験を元に、臓器・細胞移植、（機能）再生医療に関する新たな学術的成果創生のための臨床研究を進めています。患者様やその家族といった当事者の身体的・心理的・社会的な課題のみならず、看護師の高度実践に関する課題など、多面的に研究を展開しています。実際の研究フィールドとしては、手術室、集中治療室、救命救急センターなど急性期領域の他、術前の待機期間、周術期、退院後といったシームレスな医療が不可欠なため、中長期的に見た医療における新たな看護の問題解決を図るために学術的な視点で研究を進めています。本研究では、移植件数の多い米国の高度実践者や外科医の医師らとも協働しながら、その他の国、または日本における独自の課題を解決できるよう国内外で共同研究を進めています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:国際的に活躍している有識者や実践家と協働しながら、新たな看護の創生といった視点で、先駆的先進的に研究を推進しており、成果が見出せると考えます。

● 研究テーマ:

重症心身障害児の意思決定を支援するAI技術開発（意思の可視化）

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

佐藤朝美 小児看護学分野 教授

● キーワード:コミュニケーション障害、意思決定、映像データ、可視化技術、AI、

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

● 貢献できるSDGs:

● 連携可能な対象:

■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民

□その他（ ）

● 連携可能な内容:

□研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）

□研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）

□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

本研究では、重度な心身障がいのあるお子様の個別性の高い感情表現（サイン）をAI技術により可視化し、コミュニケーションを支援するシステムを開発に取り組んでいます。一般的な深層学習では大量のデータを必要としますが、本研究では、親が伝える「子どものサイン」の表現方法や現れ方に関する知見を活用し、少量データでも高精度に感情推定が可能なモデルを構築しました。サイン検出には少量のデータでも学習可能であり、またAIによりその判定根拠を説明できることで、意思判定の結果の精度を確かめたり、お子様のサインを学習できるモデルを実現しました。感情推定の精度も高い、実用可能な水準を目指し、開発に取り組んでいます。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・医療・福祉分野への貢献：医療従事者が重度な心身障害のあるお子様の感情を正確に把握し、迅速な意思決定のもとケアが行えるようにすることで、医療や生活の質向上と生命の安全や事故防止に寄与します。

・AI技術の新規性：説明可能なAI（XAI）のアプローチを取り入れ、サイン検出を通じた推定根拠の明示性を確保。これにより、専門知識がない人でも重度障害のあるお子様の意思を理解しやすく、活用場面が広がります。

・幅広い応用可能性：少量データで学習可能なモデル設計により、稀少疾患を持つ他の患者様や、障がい者・高齢者向けのコミュニケーション支援にも応用が期待できます。

・企業との共同研究・事業化の可能性：医療・教育機関や介護福祉施設向けのAIコミュニケーション支援ツールとしての開発・実装のほか、ロボット技術やウェアラブルデバイスとの統合など、産業界との連携により多様な展開が可能です。

● 研究テーマ:

食物アレルギーを有する10代のヘルスリテラシー

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

橋本美穂、小児看護学領域、講師

● キーワード:食物アレルギー、ヘルスリテラシー、10代

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

● 貢献できるSDGs:

● 連携可能な対象:

□企業　□行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:

■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

本研究は、食物アレルギーを有する10代のヘルスリテラシー向上を目的に、地域の食の専門家との協働を通じた教育的介入プログラム（マルシェ）の開発に取り組む、実践的かつ参加型の研究です。
食物アレルギーを持つ若年層が、自らの健康を主体的に管理できる力を育むことを目指し、専門家とのつながりを通じて孤立感の軽減や地域での安心感の醸成を図ります。
本研究の独自性は、医療・教育・地域連携の視点を融合し、食を通じたヘルスリテラシー教育を実現する点にあります。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

食物アレルギーを有する10代が、専門家と共に「食」を創るマルシェを通じて、ヘルスリテラシーの力を育む取り組みです。この介入により、アナフィラキシーの予防に繋がるだけでなく、食事を作る人と食べる人との関係性を深めることで、孤食の課題にもアプローチします。
地域の中で、親子が安心して食と向き合える環境づくりを目指し、食物アレルギーを持つ若年層のQOL向上に貢献します。

● 研究テーマ:

学童後期にある小児慢性腎疾患の子どもの治療アドヒアランス

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

大西令未奈 小児看護学分野 助教

● キーワード:小児慢性腎疾患、アドヒアランス、学童後期

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

● 貢献できるSDGs:

● 連携可能な対象:

□企業　□行政　■教育機関　■医療機関　■患者家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:

■研究ニーズの検討・聞き取り　□共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　□研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

本研究は、自覚症状が乏しい小児慢性腎疾患の学童後期の子どもの服薬・感染予防行動の実態を明らかにし、アドヒアランスの向上に向けて取り組んでいます。これまで、子どもと家族に委ねられてきた服薬・感染予防行動について、子どもの認知発達に合わせた方法で、子どもと家族、医療者、教育機関と連携した教育及び介入のモデルの構築を目指しています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

学童後期の子どもが病気と治療効果の関係を捉え、自分の病気や治療を理解し納得した上で行動することが難しいことから、本研究では、服薬・感染予防行動の理解と行動を「治療アドヒアランス」と定義し、小児慢性腎疾患をもつ学童後期の子どもの治療アドヒアランスの実態を明らかにしました。子どもの自立を支え、入院や治療の強化をできる限り減らすことで、子どもが学校生活を送りながら子どもらしく生きていくことを支援する取り組みです。今後は、治療アドヒアランスを向上することで、思春期に起こりやすいノンアドヒアランスの防止に繋げていくとともに、病気の再発や増悪を予防することで透析や腎移植を減らし、健康寿命を伸ばすことが期待できます。また、子どもの成長や自立に向けて、病気をもつ子どもに対する理解の促進や子どもの状態に応じた学習支援のニーズが挙げられていることから、教育機関と連携した支援の展開に繋げていきます。

● 研究テーマ:

女性と助産師のための冷え症研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

中村幸代 大学院 医学研究科 看護学専攻／医学部看護学科母性看護学領域 教授

● キーワード: 冷え症 ヘルスプロモーション 周産期

● 情報: researchmap、研究室HPリンク等

中村幸代 researchmap

女性と助産師のための冷え症研究

日本冷え症看護/助産研究会

母性看護学領域紹介

横浜市立大学 母性看護学領域 Facebook

母性看護学研究会

● 貢献できるSDGs: 3(すべての人に健康と福祉を)、5（ジェンダー平等を実現しよう）

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（ご相談下さい）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談ください）

● 研究の概要（特徴・独自性など）: 冷え症の改善や予防の支援とエビデンス・プラクティスギャップのない臨床への適用について、女性の健康をサポートし、助産師及び看護専門家がエビデンスに基づいた実践を展開できるようお手伝いすることを目指しています。
詳細は、researchmapをご参照ください。
https://researchmap.jp/7000003080

● 産学官連携に向けてのアピールポイント: 当研究プロジェクトでは、冷え症ケアの質向上と普及を目指し、研究を通して様々な活動を実施しています。女性の健康支援活動、産学連携による新製品やケア方法の開発、地域の学校（小中学校・高校）と連携した冷え症に関する研修会の開催など、多岐にわたる取り組みを進めています。どうぞご連絡ください。
詳細は、researchmapをご参照ください。
https://researchmap.jp/7000003080

● 研究テーマ:

出産後の身体回復ケア

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

竹内翔子　大学院 医学研究科 看護学専攻／医学部看護学科母性看護学領域　准教授

● キーワード: 出産後の身体回復　会陰裂傷予防　助産実践

● 情報:
research map: https://researchmap.jp/7000012168/
母性看護学研究会: https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~bosei/wordpress/

● 貢献できるSDGs:
3（すべての人に健康と福祉を） 4（質の高い教育をみんなに） 5（ジェンダー平等を実現しよう） 10（人や国の不平等をなくそう）

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
■その他（ご相談ください）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談ください）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
出産後女性の健康促進に関する研究に取り組んでいます。予防的ケアと回復ケアの両側面から臨床実践の質の向上に寄与し、周産期女性の健康をサポートすることを目指しています。
詳細はresearchmapをご参照ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
周産期女性の健康支援活動に関する教材やケア方法の開発など、多岐にわたる取り組みを進めています。また予防的視点から、妊娠前女性のヘルスリテラシーに関する研究や視線計測などによる定量的データを活用した助産実践の可視化に関する研究にも取り組んでいます。
詳細はresearchmapをご参照ください。

● 研究テーマ:

共感・周産期メンタルヘルス支援

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

篠原枝里子　大学院医学研究科看護学専攻/医学部看護学科母性看護学領域　講師

● キーワード:　周産期メンタルヘルス　助産実践　異文化　包括的性教育

● 情報:　researchmap、研究室HPリンク等
篠原枝里子　research map: research map
https://researchmap.jp/Eriko_Shinohara
母性看護学研究会:　https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~bosei/wordpress/

● 貢献できるSDGs:　3（すべての人に健康と福祉を）　4（質の高い教育をみんなに）　5（ジェンダー平等を実現しよう）　10（人や国の不平等をなくそう）　16（平和と公正をすべての人に）　17（パートナーシップで目標を達成しよう）

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
■その他（ご相談下さい）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談下さい）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
周産期メンタルヘルス分野における共感的コミュニケーション・心理支援や専門職教育に関する研究を行っています。デジタル教材作成や介入研究により臨床実践の質向上による女性や家族の支援を目指しており、今後親となる世代への支援研究も計画中です。詳細はreseach mapをご覧下さい。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
周産期メンタルヘルスの心理支援やコミュニケーションも含め、共感研究、異文化理解教育、性暴力被害者支援、在留外国人女性支援等の研究も行っております。これらを活かして国際セクシュアリティガイダンスのキーコンセプトに含まれる人間関係、ジェンダーの支援、暴力と安全保障、健康とウエルビーイングのためのスキル、人間のからだと発達の内容を含む小学生への包括的性教育も行っています。
詳細はresearch mapをご覧下さい。

● 研究テーマ:
プレコンセプションケア

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

渡邊智美 医学部看護学科母性看護学領域 助教

● キーワード: プレコンセプションケア 月経教育 周産期

● 情報: researchmap、研究室HPリンク等
researchmap: https://researchmap.jp/cLdAt6HS8nuyUpxE
母性看護学研究会: https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~bosei/wordpress/

● 貢献できるSDGs: 3（すべての人に健康と福祉を） 4（質の高い教育をみんなに） 5（ジェンダー平等を実現しよう）

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（ご相談ください）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談ください）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
プレコンセプションケアをテーマに、月経教育に着目し研究を行っています。教育教材・介入によるウィメンズヘルスの向上につなげることを目指しています。
詳細はresearchmapをご覧ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
保護者向けの教材開発に取り組んでおり、世代を横断したプレコンセプションケアに取り組んでいます。現在は主に中学校・高校などの教育機関を対象に研究活動を行っており、今後は対象を拡大して取り組むことを目指しています。
詳細はresearchmapをご覧ください。

● 研究テーマ:
早産予防

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

木寺 雅希 医学部看護学科母性看護学領域 助教

● キーワード: 継続ケア、早産予防、周産期、Evidence-based practice

● 情報: researchmap、研究室HPリンク等
木寺雅希 https://researchmap.jp/Masaki_Kidera
母性看護学研究会 https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~bosei/wordpress/

● 貢献できるSDGs: 3（すべての人に健康と福祉を） 4（質の高い教育をみんなに） 5（ジェンダー平等を実現しよう） 10（人や国の不平等をなくそう）

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（ご相談ください）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
■その他（ご相談ください）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
周産期医療分野でのEvidence-based practiceの推進による早産予防に取り組んでいます。助産師の専門能力の継続開発と、女性のセルフケア向上の両面から早産の予防を目指しています。
詳細はresarch mapをご参照ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
助産師・看護師に向けたEvidence based practiceに基づいた実践を推進する教材開発と、予防医療の推進を行っています。
詳細はresarch mapをご参照ください。

● 研究テーマ:

病院・高齢者施設・在宅における高齢者の医療・看護の質向上に関する研究
地域包括ケアシステム・多職種連携に関する研究
介護（多重介護、ヤングケアラー、ビジネスケアラーなど）に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

老年看護学領域 教授:叶谷由佳　講師:南﨑眞綾、星美鈴

助教:三浦武、曾徳容、佐藤清美

● キーワード:
高齢者、在宅、健康増進、医療・看護の質、地域連携、退院支援、病院、高齢者施設、訪問看護

● 情報:
https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/nc/ryoiki/ryoiki/rounen/index.html

● 貢献できるSDGs: 3. すべての人に健康と福祉を/11.住み続けられるまちづくりを

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
少子高齢社会、地域包括ケアシステム構築・発展をめざした社会に必要かつ貢献可能な看護実践やシステムを構築していくための先駆的研究を行っている。さらに、共同研究や行政との連携した諸活動の実績を有している。
【競争的資金を獲得して進行している研究課題（2026年5月時点）】
・マルチプルケアラー(多重介護者)への支援ツールとプログラムの開発
・入院高齢者に対する身体拘束最小化に向けた看護管理実践ガイドの作成
・高齢者の生活を支える看護職による地域包括ケアコンピテンシー尺度の開発
・看護職による地域包括ケアのコンピテンシー基盤型自己学習プログラム
・高齢者のウォーキングが転倒骨折に及ぼす影響:医療・介護レセプトデータを用いた分析
・悪性脳腫瘍患者の退院に関連する要因の解明と予測モデルの作成
・大規模医療データに基づく労働者の健康の研究:経済学×医学×データサイエンスによる学際的検証
・介護を担う就労者（ワーキングケアラー）における労働生産性と生活の質に及ぼす影響:JACSIS調査
・デジタルヘルスデバイスを用いた地域高齢者の身体機能評価と転倒予防効果の検討
・急性期病院における口腔機能管理の現状と課題-病棟看護師を通してみたオーラルフレイル対応
・働く世代の時間貧困解消実現に向けたサービス開発モデルの研究開発
・こども家庭庁EBPMサイクルの確立に関する研究:全事業アウトカム見直しと重点事業エビデンスの創出
【共同研究】
・救命医学教室との共同研究:地域高齢者を対象とした転倒事故による救急受診の現状把握とそのリスク関連因子・介入ポイントの同定に関する観察研究
・国際商学部・データサイエンス研究科との共同研究:大規模医療データに基づく労働者の健康の研究、働く世代の時間貧困解消実現に向けたサービス開発モデルに関する研究
・東北大学・下関大学との共同研究:JACSIS調査による介護者に関する研究
・社会福祉法人若竹大寿会との共同研究:介護保険施設におけるコグニサイズ動画プログラムの開発と本人と職員への効果の検討(仮)
・株式会社メカニカル技研との共同研究:大学職員を対象とした癒しプログラムの検証(仮)
・グローバルヘルス政策研究センターとの共同研究:新型コロナウイルス罹患後の高齢者に関する研究
・京都認知症センターとの共同:認知機能と運動機能の課題に関する研究
・中国（山東大学）との国際共同研究:多重介護に関する研究
・中国（復旦大学）との国際共同研究:認知症患者の症状ネットワーク分析に関する研究

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
老年期は過去の生活や考え方、社会との関わり方、全てが反映される人生の集大成の時期であり、このような時期にいきいきと生活できるよう支えるのが老年看護の役割です。また、自宅や地域で暮らす療養者の生活の質の向上を目指し、保健・医療・福祉のあらゆる面から提供する看護である在宅看護も専門としています。地域全体で療養者や家族の生活を支える老年看護・在宅看護の視点から、より良い未来をともに創造してまいります。

● 研究テーマ:

横浜市の訪問看護師人材育成に関するシステム構築

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

老年看護学領域 教授:叶谷由佳　講師:南﨑眞綾、星美鈴

助教:三浦武、曾徳容、佐藤清美

● キーワード:
高齢者、在宅、健康増進、医療・看護の質、地域連携、退院支援、病院、高齢者施設、訪問看護

● 情報:
https://www.yokohama-cu.ac.jp/nur/nc/ryoiki/ryoiki/rounen/index.html

● 貢献できるSDGs: 3. すべての人に健康と福祉を/11.住み続けられるまちづくりを

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
2018年度から現在までの継続的活動として
地域包括ケアシステムの中で貢献できる訪問看護師を育成することに向けた諸活動を行っている。
【具体的な活動内容】
①訪問看護実践に必要とされる能力の明確化（実態調査）
②訪問看護師のキャリアラダーの開発（横浜市医療局・横浜市の訪問看護事業所との協働）
③訪問看護師の実践力を高める病院連携による研修システムの構築（横浜市医療局・横浜市4病院との連携）
④訪問看護事業所管理者・精神/小児訪問看護師向けラダーの開発（横浜市医療局・横浜市在宅看護協議会との連携）
⑤訪問看護師の実践力向上に向けたe-ラーニングを活用した教育コンテンツの構築（エルゼビア・横浜市在宅看護協議会・ 横浜市医療局との連携）
⑥上記⑤の活用状況の調査
⑦上記②、③、⑤の見直し

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
機能低下や疾病、障がいのある高齢者を在宅で支援することに向けて、高い訪問看護実践力を備えた訪問看護師の育成は喫緊の課題です。老年看護学領域では、長期的なプロジェクトとして行政や訪問看護協議会・民間企業と連携し、訪問看護師の育成に取り組んでいます。

● 研究テーマ:

ICTを用いた災害時要援護者の看護記録ツールの活用推進

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

山田典子、精神看護学領域・社会精神看護学、教授

田辺有理子、藤澤希美

● キーワード:ICT、要援護者、看護記録

● 情報: researchmap、https://researchmap.jp/read0211359?lang=japanese
研究室HPリンク等　https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ycu_pn/wp/

● 貢献できるSDGs:3, 4, 5, 11, 12, 17

● 連携可能な対象:　■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
■その他（訪問看護ステーション、葬儀業者、保険会社 等　　）

● 連携可能な内容:　□研究ニーズの検討・聞き取り　□共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
■その他（大規模災害時の国際支援活動　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

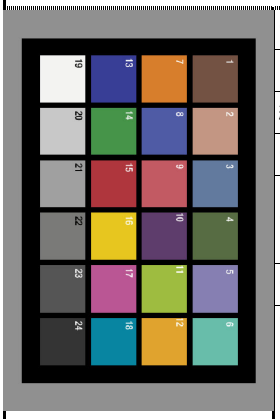
・災害に関する多様なITCツールがありますが、トリアージタグ赤～黒のかた、また酷暑や医療過疎地における要援護・要保護対象者の平時の健康管理に本記録ツールが使用できます。身体状況、療養環境、被災による発見時の状況を文字と写真、ビデオで一つの機器に3000件まで保管できます。口腔内の情報や死の判定（2回以上）記録のプリントアウトができ、医師の労力削減に寄与できます。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・要配慮個人情報を扱うためセキュリティを強固にし実用化に繋げる必要があります。東日本大震災のように大量に住所地を特定できない場所でご遺体が発見されるような場合、発見時の情報を記録にとどめる、早期の死亡診断書の発行と、保険金が下りることで残された遺族の生活不安を軽減することを願っています。また、個人が特定できない場合、日々腐敗していくご遺体を納体袋を開けて、誤判定する例もあるため、発見時の最も判断しやすい画像をもとに、個人の特定が可能になります。腐敗臭や黒ずんだ家族の姿が脳裏から離れない等の心的トラウマを軽減できる可能性があります。

● 研究テーマ:

子どもの体表観察記録ツールの活用推進



● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

山田典子、精神看護学領域・社会精神看護学、教授

網野真由美（名寄市立大学、小児看護学、助教）

● キーワード:体表、観察記録、小児

● 情報:

● 貢献できるSDGs:3, 4, 5, 11, 12, 16

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（保育園、幼稚園、学童保育等 ）

● 連携可能な内容: □研究ニーズの検討・聞き取り □共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

・子どもの体幹の育ちが生活環境の変化やコロナ禍の影響もうけて体力の低下等を危惧する保育者もいる。保育園に勤務する看護職もいるが全園には配置されていない。子どもの背景や状況等の基本データと子どものけがの写真について分析を進めてきた。虐待のリスク要因となる基本観察項目も含め、記録の共有が子ども虐待の早期発見へも繋げていけるかデータ分析中である。本研究は、看護師と保育士が乳幼児の観察において共通の視点を持ち、記録を共有し、閉塞的な保育環境の中でサポーティブに関わる基盤を築けた点が有意義であり、独自性のある研究である。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・保育施設の子どもの怪我の対応
・病気やケガの予防と早期発見の保育士向け研修
・少ない子どもの安全を守り、現場で働く保育士が保護者から訴訟を起こされた時の対応に活用

● 研究テーマ:
・精神障がいを有する人のリカバリー、ピアサポートに関する研究
・精神看護学教育に関する研究
・集団精神療法に関する研究
・精神障害を有する人との共同創造に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）：藤澤希美、医学部看護学科 精神看護学 講師

● キーワード:精神看護学教育、リカバリー、ピアサポート、集団精神療法、共同創造

● 情報：
リサーチマップ：researchmap：https://researchmap.jp/nozomi24
研究室HP：https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ycu_pn/wp/

● 貢献できるSDGs:③健康と福祉、④質の高い教育、⑤ジェンダー平等、⑧働きがい、⑩不平等、⑪まちづくり、⑯平和と公平、⑰パートナーシップ

● 連携可能な対象： ☑企業 ☑行政 ☑教育機関 ☑医療機関 ☑患者・家族・市民
☐その他（ ）

● 連携可能な内容： ☑研究ニーズの検討・聞き取り ☑共同研究（計画・予算獲得・実施）
☑研究結果の共有（研修・講座） ☑研究成果の活用（社会実装）
☐その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）：精神障がいを有する人が自分らしく生きるリカバリーの実現に向けた研究に取り組んでいます。人が自分らしく生きるためにはどのような看護が必要か、当事者、家族、支援者と共に学び合うリカバリーカレッジの研究活動から私自身も学び続けています。また、当事者の知見を活かしてリカバリーの理解に向けた病棟看護師向けの教育プログラムを開発し、卒後教育にも生かしています。また、自助会や学生のグループワークなど人と人とが集まる場で起こる現象の理解に向けて、集団精神療法の研究にも取り組んでいます。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント：主にメンタルヘルスについて、企業などが行う市民および職員向けのプログラムに対してサポートを行うことが可能です。

● 研究テーマ:

施設・病院における虐待防止
職員のメンタルヘルスケア、アンガーマネジメント
学校保健や市民向けのメンタルヘルス教育
グループホームの高齢化および看取り支援
精神科医療の歴史研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

田辺有理子（精神看護学 講師）

● キーワード: 介護 福祉 高齢者虐待 障害者虐待 グループホーム 歴史

● 情報: https://researchmap.jp/tanabeyuriko

● 貢献できるSDGs: 3.すべての人に健康と福祉を、4.質の高い教育をみんなに、
5.ジェンダー平等、8.働きがいも経済成長も、10.人や国の不平等をなくそう、
11.住み続けられるまちづくりを、16.平和と公正をすべての人に、
17.パートナーシップで目標を達成しよう

● 連携可能な対象:
□企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
高齢者虐待防止、障害者虐待防止のための対策および職員教育として倫理・ストレスケアなど研究を行っています。
グループホームの高齢化および看取りの研究や世話人の教育支援などを行なっています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
高齢者虐待の防止、障害者虐待の防止のため教育、医療介護福祉職のストレスケアなどの知見があります。

● 研究テーマ:

精神対応のグループホームにおける支援・高齢化・看取り

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

田辺有理子（精神看護学 講師）、山田典子（精神看護学 教授）

藤澤希美（精神看護学 講師）

● キーワード:精神看護 グループホーム 高齢化 看取り

● 情報: 研究室HP https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ycu_pn/wp/

● 貢献できるSDGs: 3.すべての人に健康と福祉を

● 連携可能な対象: □企業 ■行政 □教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

精神対応のグループホームにおける生活支援をはじめ入居者の高齢化に関する課題や看取りの対応事例などの研究を行っています。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

グループホームにおける支援をはじめとして、グループホーム世話人の教育支援、高齢化や看取りなど今後求められる福祉施策に活用できる知見を集積しています。

● 研究テーマ:

Ⅰ.生涯を通じた健康の保持増進・疾病予防、健康長寿にむけた地域づくりとヘルスプロモーションに関する研究
Ⅱ.質の高い在宅療養支援と地域ケアシステムにおける研究
Ⅲ.地域看護学・公衆衛生看護学における教育方法の開発と評価に関する研究

● メンバー(氏名、領域・分野、職位等):

地域看護学領域 教授:有本梓、講師:伊藤絵梨子、助教:赤塚永貴・石川頌子

● キーワード: 健康増進、予防、地域づくり、ケアシステム、民産官学協働

● 情報:

横浜市立大学地域看護学領域HP

● 貢献できるSDGs: 3(すべての人に健康と福祉を),11(住み続けられるまちづくりを)

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他(ご相談ください)

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究(計画・予算獲得・実施)
■研究結果の共有(研修・講座) ■研究成果の活用(社会実装)
■その他(政策・施策・事業の新規開発, デジタルヘルス技術・アプリ開発)

● 研究の概要(特徴・独自性など):

地域における子どもから高齢者にいたるさまざまな健康レベルにある対象集団(コミュニティ)の健康課題やニーズを把握する地域診断法や評価ツールの開発、またそれらに基づく予防に主眼をおいたプログラム・システムの開発とその評価、さらには保健医療福祉事業や施策づくりとその評価等の実証的研究に取り組んでいる。

■競争的資金を得て実施している研究(2024年度時点)
【科学研究費】
・乳幼児の母親に対する民産官学協働によるオンライン孤独感軽減プログラムの開発と評価
・デジタルコンパッションケア:オンライン在宅緩和ケアツールによる新展開と評価
・超高齢者のレジリエンス促進プログラムにむけた介入モデルの構築
・糖尿病未受診者に対する意思決定支援ツール開発と効果検証―患者・市民参画による研究
・大規模団地におけるVUCA時代の全世代対応型孤立化予防研究

【JST 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)】
・若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現するメタケアシティ共創拠点

【その他研究プロジェクト】
・家庭と子育てに関するコホート研究(ハマスタディ)
・地域の保健医療データベースと大規模コホートを組み合わせた市民参画による公衆衛生研究
・ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に関する研究

■共同研究
・子育て施策の評価及び泉区子育て実態調査の結果分析(横浜市泉区こども家庭支援課・金沢区こども家庭支援課)
・横浜市保土ヶ谷区区づくり推進事業輝けシニア2025事業(横浜市保土ヶ谷区福祉保健センター)
・横浜市こころの健康に関する市民意識調査に関する研究(横浜市こころの健康相談センター)
・訪問看護研究会の活動評価及び助言(横浜市在宅看護協議会)

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
当領域では、これからもさまざまな機関や関係者との連携のもと学術と社会の発展に貢献できるよう努力を献げて参ります。私たちの取組みに関心のある方はぜひ一度ご連絡ください。お待ちしております。

● 研究テーマ:

乳幼児を育てる母親・父親の孤独感と孤立の予防に向けた親子保健・子育て支援方策の開発と評価
（孤独感に着眼した養育者向けデジタルサードプレイスの開発と社会実装）

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

有本 梓

大学院医学研究科看護学専攻 地域看護学分野/医学部看護学科地域看護学領域 教授

● キーワード:公衆衛生看護、孤立・孤独感、メンタルヘルス、保健師、デジタルヘルスケア

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

有本梓／researchmap

横浜市立大学地域看護学領域HP

横浜市立大学医学部地域看護学教室Facebook

科研費基盤（B）：乳幼児の母親に対する民産官学協働によるオンライン孤独感軽減プログラムの開発と評価

科研費基盤（C）：都市部における母親の社会的孤立予防・孤独感軽減プログラムの開発

共同研究成果：泉区子育てに関するアンケート調査（2019年・2024年）

共同研究成果：金沢区子育て実態調査・子育て協働の指針（2019年・2024年）

共同研究成果：横浜市子ども青少年局子育てニーズ調査・親になる前の支援検討（2022

共同研究成果：磯子区子育てニーズ調査（2023年）

● 貢献できるSDGs: 3(すべての人に健康と福祉を),11（住み続けられるまちづくりを）

● 連携可能な対象:
■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
■その他（ご相談ください）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
■その他（政策・施策・事業の新規開発, デジタルヘルス技術・アプリ開発）

.

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
【特徴】乳幼児を育てる養育者（母親・父親）の孤独感と孤立の実態と生じるメカニズムを明らかにし、孤独感と孤立の予防に着眼した対策を行政・企業・NPO・子育て支援者・養育者の皆さんと一緒に民産官学協働で検討しています。
【独自性】孤独感を自己評価できる質問項目（UCLA孤独感尺度第3版10項目・3項目版）の科学性を検証し確立しました。子の尺度は世界で最もよく使用されています。内閣府で毎年実施される孤立・孤独に関する全国調査にも採用されています。横浜市内での養育者の孤独感についての調査し分析しています。孤独感については国際比較・地域比較が可能です。
【研究の必要性】乳幼児を育てる養育者（母親・父親）の孤独感と孤立は親子の健康や生活の質（QOL）に影響する世界的な課題です。日本では諸外国に比べ、少子化や核家族化などにより、養育者が孤立し孤独感を抱きやすい状況にあります。
■成果について、詳しくはreserchmap・科研費データベースほかをご覧ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント● 民産官学連携協働での研究・教育・社会貢献を日常的に行っています。
・行政の親子保健に関わる保健師・事務職員の皆さんと各地域の課題や研究ニーズを伺い、一緒に検討し、共同研究（調査の計画・予算獲得・実施）、結果の報告（研修・講演会・動画やリーフレット作成・監修）、調査結果をふまえた事業提案をしています。横浜市や神奈川県・全国の自治体保健師向けに、児童虐待や母子保健に関する研修、委員、アドバイザーを実施中です。
・民間企業、NPO、子育て支援者の皆さんとのヒアリングやグループディスカッションもご要望に応じて行っています。
・新たに下記の科学研究費を獲得して実施予定です。
2025年度～基盤研究(B)（一般）「孤独感に着眼した養育者向けデジタルサードプレイスの開発と社会実装」
■お問い合わせお待ちしております。

● 研究テーマ:

・在宅緩和ケアにおけるがん療養者の家族介護者支援プログラムの開発と評価に関する研究
・在宅ケアの現場における事例検討や訪問看護師支援に関する研究
・壮年期から高齢期にある地域住民の健康増進に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

伊藤 絵梨子（伊藤 絵梨子）

大学院医学研究科看護学専攻 地域看護学分野/医学部看護学科地域看護学領域 講師

● キーワード: 緩和ケア、在宅ケア、家族支援、プログラム開発

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

伊藤　絵梨子/researchmap

横浜市立大学地域看護学領域HP

● 貢献できるSDGs: 3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

在宅緩和ケアにおけるがん療養者とその家族にとってのより良い最期の迎え方に着目し、家族介護者への支援プログラムの開発と評価に取り組んでいます。現在は、オンラインによる在宅緩和ケアツールを考案し、その開発と評価に着手しています。

また病棟看護師や訪問看護師の経験から、在宅ケアの現場における課題解決に向けた、事例検討や訪問看護師支援に関する研究に現場の皆さんと一緒に取り組んでいます。

研究テーマの詳細や成果については、research map等をご参照ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

・上記の研究テーマについて、自治体・企業・医療機関・NPO等との連携・協働によって進めています。
・在宅ケアに関わる専門職や訪問看護師の皆さんと、現場における課題を共有し、課題の解決に向けた支援方策の検討や研究に取り組んでいます。
・下記の科学研究費を獲得して実施しております。
2024年度～基盤研究(B)（一般）「デジタルコンパッションケア：オンライン在宅緩和ケアツールによる新展開と評価」
◇ご関心の近いテーマ等がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

● 研究テーマ:
・超高齢者のレジリエントエイジング実現にむけた世代間コミットメントプログラムの開発
・自治体におけるデジタルヘルスの活用及び人材育成に関する研究
・ナッジ等行動経済学の自治体保健施策・事業への応用に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

赤塚永貴（あかつか　えいき）

医学部看護学科地域看護学領域　助教

● キーワード: 公衆衛生看護学、レジリエンス、超高齢期、デジタルヘルス、ナッジ

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

赤塚永貴／research map

横浜市立大学地域看護学領域HP

● 貢献できるSDGs:
3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを

● 連携可能な対象:
■企業　■行政　■教育機関　■医療機関　■患者・家族・市民
□その他（　　）

● 連携可能な内容:
■研究ニーズの検討・聞き取り　■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座）　■研究成果の活用（社会実装）
□その他（　　）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:
超高齢と呼ばれる年代を迎えた方々のレジリエンス（困難をしなやかに乗り越える力）に着目し、地域をフィールドとした研究に取り組んでいます。これまでの研究では、超高齢者の方々がもつレジリエンスを定量的に評価できる尺度（Resilience scale for oldest-old ；RSO）を開発しました。この尺度は日本語、英語、中国語での利用が可能です。今後は、開発尺度を用いた実証研究を進めながら、レジリエンス向上にむけた具体策について検討する予定です。
また、行政保健師として自治体に勤務した経験から、保健師活動のDX（デジタル・トランスフォーメーション）やナッジ等の応用に関する研究にも現場の皆さんと一緒に取り組んでいます。
研究テーマの詳細や成果については、research　map等をご参照ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:
上記の研究テーマについて、自治体・企業・教育機関・医療機関・NPO等との連携・協働によって進めています。ご関心の近いテーマ等がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

● 研究テーマ:

・デジタルウェルビーイングと心身の健康づくりに関する研究
・若者を含む幅広い世代のメンタルヘルスや自殺対策に関する研究

● メンバー（氏名、領域・分野、職位等）:

石川 頌子（いしかわ しょうこ）

医学部看護学科地域看護学領域 助教

● キーワード:公衆衛生看護学、働く世代の健康づくり、メンタルヘルス、自殺対策

● 情報： researchmap、研究室HPリンク等

石川 頌子／researchmap

横浜市立大学地域看護学領域HP

● 貢献できるSDGs: 3 すべての人に健康と福祉を、11 住み続けられるまちづくりを

● 連携可能な対象: ■企業 ■行政 ■教育機関 ■医療機関 ■患者・家族・市民
□その他（ ）

● 連携可能な内容: ■研究ニーズの検討・聞き取り ■共同研究（計画・予算獲得・実施）
■研究結果の共有（研修・講座） ■研究成果の活用（社会実装）
□その他（ ）

● 研究の概要（特徴・独自性など）:

働く世代や若年成人の心身の健康づくりに関する研究や、若者も含む幅広い世代のメンタルヘルスの向上、自殺対策に関する研究に取り組んでいます。行政保健師としての経験を活かしながら研究を進めています。
研究テーマの詳細や成果については、research map等をご参照ください。

● 産学官連携に向けてのアピールポイント:

上記の研究テーマについて、自治体・企業・教育機関・医療機関・NPO等との連携・協働によって進めています。ご関心の近いテーマ等がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。